



第25回 東京都市大学横浜祭

新たなる横浜祭への「挑戦」

2021年度 東京都市大学横浜祭実行委員会 会長
メディア情報学部 情報システム学科 3年 新井 恵也

6月5日(土)、6月6日(日)に第25回東京都市大学横浜祭がYouTubeのライブ配信にて開催されました。

今年度の横浜祭のテーマは、「挑戦」でした。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが不透明であるため、例年通り学校内に多くの来場者を招いて開催することは難しいと判断し、オンライン開催となってしまいました。現地開催ではできないことをする機会でもあり、普段できない経験をすることができるという点からこのテーマに決定しました。

全体的な視聴回数は、現段階の合計で約6,000回となっております。例年の現地開催での集客には程遠い数となってしまいました。皆様ひとりひとりの視聴回数で私達は励む事ができました。

今年度はこのような形での開催となりましたが、オンライン開催ならではの「情報」企画である「e-sports企画」では、二日間に渡

りその日の最高視聴者数を記録することができました。現地開催では、あまり目立たないような企画ですが、オンライン開催により注目の企画として配信することができました。

また、横浜祭の特色である「地域」について、飯島健太郎研究室・都市緑化研究会と都筑区役所と地域住民の「官民学」が協力して、早淵川・老馬谷ガーデン(HRG)プロジェクトの活動や、地域住民・学生へのインタビューの様態を撮影し配信することで広く皆様にお伝えすることもできました。

最後になりますが、横浜祭が無事に開催する事ができましたのも、日頃からのご支援、ご協力賜りました皆様のお力添えがあつてからこそだと思っております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

昨年4月より学生部長を拝命し、後援会事務局長を務めております。後援会は、すべての学生に対して、学修に専念し安定した学生生活を送ることができるように、入学から卒業までの間、きめ細かなサポートを行っております。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、皆様の生活にも少なからず影響を及ぼし、本学でも華やかなキャンパスライフは残念ながら影を潜めています。幸いにも、本学では今日まで学内クラスターは発生しておりませんが、これもひとえに皆様のご協力によるものと、この場を借りて心より御礼申し上げます。

しかし見方を変えると、このような逆境の中だからこそ新しいもの

が生まれてくることがあります。今年度6月には本学初のオンラインによる横浜祭を開催しました。課外活動の後援会補助金制度をオンライン申請に切り替えました。また、新学期のキャンペーンとして学食でのメニューにプラス1品デザート企画を実施しました。後援会としましては、今後も学生の皆様に充実したキャンパスライフを取り戻していただけるよう様々な企画を準備しております。

今年度も引き続き、会員の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく御礼申し上げます。

学生部長(後援会事務局長) 理工学部 自然科学科 教授
飯島 正徳

事務局だより

